

平成16年度の輸送実績 (速報)

平成17年4月

1. 輸送概況

平成16年度は、6月から10月にかけて、観測史上最多となる10個の台風が日本列島に上陸した他、7月の新潟地区における局地的大雨、12月の東京地区での強風、さらには1月以降、上越・北日本各地で19年ぶりとなる豪雪に見舞われる等、輸送障害が多発し、高速貨1,699本、専貨167本が運休した。

また、10月23日に発生した新潟県中越地震により、信越線、上越線は長期にわたって不通となった。この間、迂回列車の運転やトラックによる代行輸送を迅速に行い、代替輸送力確保に最大限努めた。信越線については11月29日に、上越線は12月27日の一部単線運転再開を経て、3月25日に153日ぶりに全面開通となり、通常の輸送力に回復した。この地震による列車運休は、高速貨1,545本、専貨537本に達し、自然災害の影響を極めて強く受けた年度となった。(年度計で高速貨3,244本、専貨704本運休)

荷動きについては、大型コンテナの利用拡大をはじめ「環境負荷の小さい物流体系の構築を目指す実証実験」認定件数の増加に見られる各企業の継続したモーダルシフトへの取組みもあって、年度前半は比較的堅調に推移した。しかしながら、下期は災害等の影響を極めて強く受けた他、年度後半に入り、経済活動にややかげりが見られた事もあり、全体では前年度比97.9%の3,707万トンとなった。なお、3月1日には、さらなるモーダルシフトの進展に備えて関東～九州間に新たに列車を増発する等、輸送力の増強、速達化を柱にしたダイヤ改正を実施した。

コンテナ貨物では、鉄道シフトを強めた自動車部品やスーパーレールカーゴの運転等により増送となった積合せ貨物等が前年を上回ったものの、前年度に政府米輸送の特需があった農産品が大きく減送した他、生野菜青果物が前年度を下回る等、各品目とも災害の影響を大きく受け、コンテナ全体では前年度比99.8%の2,198万トンとなった。

車扱貨物は、夏の猛暑や1月以降の冷え込みにより増送となった石油が前年を上回ったが、一部区間の輸送終了(三井鉱山セメント(株)解散)があり大幅に減送となったセメントを始め、コンテナ化を進めた紙・パルプ、化学工業品等が前年を下回り、車扱全体では前年度比95.1%の1,509万トンとなった。

2. 輸送実績

(単位:千トン、%)

種別 扱別	年度累計		比較
	本年実績	前年実績	対前年
コンテナ	21,982	22,016	99.8%
車扱	15,086	15,861	95.1%
計	37,068	37,877	97.9%

3. 品目別輸送実績表

(単位:千トン、%)

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品	995	1,331	-336	74.8%
	生野菜青果物	938	1,009	-71	93.0%
	化学工業品	2,170	2,183	-13	99.4%
	化学薬品	1,674	1,646	28	101.7%
	食料工業品	3,383	3,421	-38	98.9%
	紙パルプ等	3,464	3,393	71	102.1%
	他工業品	1,514	1,425	89	106.2%
	積合せ貨物等	2,589	2,411	178	107.4%
	自動車部品	518	425	93	121.9%
	工口関連物資	478	490	-12	97.6%
	その他	4,259	4,282	-23	99.5%
コンテナ計	21,982	22,016	-34	99.8%	
車扱	石油	9,622	9,362	260	102.8%
	セメント	1,288	1,983	-694	65.0%
	石灰石	676	666	10	101.5%
	車両	1,594	1,661	-68	95.9%
	紙・パルプ	485	609	-123	79.7%
	化学工業品	588	687	-99	85.6%
	その他	833	893	-60	93.3%
車扱計	15,086	15,861	-775	95.1%	
合計	37,068	37,877	-809	97.9%	

(車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値)

品目別輸送実績（平成16年度）

1. 上期実績

(単位：千トン、%)

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品	452	498	-46	90.8%
	生野菜青果物	384	389	-5	98.7%
	化学工業品	1,101	1,063	38	103.6%
	化学薬品	818	795	23	102.9%
	食料工業品	1,760	1,741	19	101.1%
	紙パルプ等	1,741	1,673	68	104.1%
	他工業品	740	686	54	107.9%
	積合せ貨物等	1,291	1,123	168	115.0%
	自動車部品	247	194	53	127.3%
	エコ関連物資	239	247	-8	96.8%
	その他	2,123	2,074	49	102.4%
	コンテナ計	10,893	10,483	410	103.9%
車扱	石油	3,980	3,727	253	106.8%
	セメント	647	927	-280	69.8%
	石灰石	330	312	18	105.7%
	車両	688	713	-25	96.5%
	紙・パルプ	256	309	-53	83.0%
	化学工業品	298	342	-44	87.1%
	その他	422	456	-35	92.4%
	車扱計	6,620	6,786	-166	97.6%
合計	17,514	17,269	244	101.4%	

2. 下期実績

(単位：千トン、%)

扱別	品目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品	543	833	-290	65.2%
	生野菜青果物	555	620	-65	89.5%
	化学工業品	1,069	1,119	-50	95.5%
	化学薬品	856	851	5	100.6%
	食料工業品	1,623	1,680	-57	96.6%
	紙パルプ等	1,723	1,720	3	100.2%
	他工業品	773	738	35	104.7%
	積合せ貨物等	1,297	1,288	9	100.7%
	自動車部品	271	231	40	117.3%
	エコ関連物資	239	243	-4	98.4%
	その他	2,144	2,210	-66	97.0%
	コンテナ計	11,089	11,533	-444	96.1%
車扱	石油	5,642	5,636	7	100.1%
	セメント	641	1,056	-414	60.7%
	石灰石	347	354	-8	97.8%
	車両	905	948	-43	95.5%
	紙・パルプ	229	300	-71	76.4%
	化学工業品	290	344	-55	84.1%
	その他	411	437	-26	94.1%
	車扱計	8,466	9,075	-609	93.3%
合計	19,554	20,608	-1,053	94.9%	

車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報